

一人でも多くの生徒が、突き詰めたいものを見つけることができるように

岐阜県立 岐阜高等学校

明治6年(1873年)創立の歴史と伝統ある岐阜高等学校は、「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、「トータルパーソン(知性と精神性を高い次元で統合した人間)の育成」を指針に掲げています。今年度から個別のより高度な学習ニーズに対応するために単位制へ移行し、総合的な学習の時間を再編。1年生前期からの「職業研究」「大学研究」、2年生の「探究活動」へと系統立てられた学びの中で、生徒が自分の興味・関心ある学問分野や研究テーマを見つけるためのツールとして、夢ナビライブ講義動画サービスが活用されています。



「生徒の心に火をつける」 きっかけは生徒によって 十人十色

関谷：本校では、「トータルパーソンの育成」をスクールアイデンティティとして定め、その実現に向けて「学ぶ・考える・思う」をキーワードに、教育活動を展開しています。生徒には色々な体験、経験を積む中で、固定観念を壊し、広い考えを持てる人間になってほしいと考えています。

小野：「グローバルリーダー養成事業」の合言葉は「生徒の心に火をつける」。各界の著名な方の講演会や国際交流体験、科学・数学に関する大会など、自ら手を上げて参加する生徒がかなり増えてきました。新しい内容では、イギリスの高校とのスカイプでのディスカッションを準備しています。ただ、そういったものに手をあげない生徒にも、総合的な学習の時間を通して、もっと自分の興味・関心を掘り下げてほしい、あるいは知らない世界に気付いてほしいという思いがあります。

関谷：「生徒の心に火をつける」きっかけは十人十色なので、講演に
が何に興味・関心があるのかを掘り下げ、それについて調べ、それについて自分の意見を持つということが、別の機会や分野でも有効なアプローチの方法であることを知ってほしいのです。
大野：そのアプローチの方法を生かし、その分野ではどのような内容が研究できるのか、他の大学ではどのような研究テーマが存在するのかという比較の中から、なぜその大学を選ぶのかということまで確認できるようにすることが理想です。

参加して火がつけばいいですし、そうでない生徒にも、やはり将来に対して主体的になってほしい。総合的な学習の時間の取り組みの中では、自分がどういう人間なんだということについて、考えを深めてほしいです。自分は、本当はこういうことが好きなんだ、ということに気付かせることは、進路選択において非常に大切です。もちろん、押し付けのわけではなく、きっかけになる機会を用意するので、その中で主体的に取り組んでほしいと考えていて、その経験を文理選択や学問選択、大学選択の一助にしていきたいと考えています。

生徒の興味を 基点として、 貫かれている取り組み

大野：1年生の総合的な学習の時間の取り組みは大きく2つに分けることができます。ひとつは、自分が描く将来像の周辺から、自分が本当に興味のあることを探し、調べるというキャリアリサーチです。もうひとつは、その中で確認で

私たちは「生徒の心に火をつける」スイッチを入れる役割ではありません。どこにスイッチがあるかは生徒ごとに異なるのです。だからこそ、とにかく自分の好きなものを見つけてみる！という姿勢でこれからも臨んでいきたいと思えます。

きた興味・関心を生かしながら、大学での研究テーマへの理解を深める大学・学部リサーチです。これらに取り組み中で、夢ナビ講義動画サービスを活用しています。
キャリアリサーチは、「何に、なぜ興味があるのか」という、自分のことを知るところからスタートします。自身の将来像、例えば学校の先生に興味があるのであれば、どんな教科、どういった学校、どういった理由というように細かいことをイメージして掘り下げ発表まで行います。
小野：大学・学部リサーチでは、表面的な学部・学科調べというようなものではなく、大学で学べる学問の中に、自分で興味のある課題を見出すことが目標です。卒業論文のテーマを調べたり、夢ナビライブ講義動画サービスで大学教員の講義を聴いたりして、何が行われているかを確認していかないとそこまでたどり着けない。そのために講義動画は大変有効だと思っています。昨年までも大学調べは行われていましたが、表面的なところを、調べて終わっていました。昨年も指導した

教員からは、講義動画を視聴することで、具体的に「この研究すごいな」とか「やっぱりこれ面白いな」という反応になっているので、良かったという声が上がっていました。
大野：自分がいろいろなものに興味があると確認できた生徒がいたことも、よかったです。他の生徒の発表や夢ナビなどを通して見えてきた興味が、どんどん次へ次へと進んでいくのは、生徒の様子を見ていくとわかりました。自分の興味・関心が広がっていくようなイメージですが、そういった興味・関心を育み、いずれ大学で学びたいことまで発展していかねばならないかと願っています。
小野：「これはおもしろいぞ」ということを探してきて、自分なりの意見をまとめ、自信をもって発表する。それが目標です。それには、おもしろそうな何かを探していく活動を、1年生からすることが重要だと考えています。とにかく自分

自分の好きなものを見つけてから始める

小野：進学しても「やっぱりおもしろくなかった」というのは、本当に残念なことだと思えます。一人でも多くの生徒に自分自身の手でこのことを突き詰めたいというのを見つけてほしい。もっと言うと、大学ですでにこういうことをやっているなら、もっと僕はこの部分をやりたいというように、他人が気付かないようなことに気付くことが理想かもしれません。

夢ナビライブ講義動画サービスの活用

自己理解

興味を基点とした
学問研究

- 自分が描く将来像の周辺から、自分が本当に興味のあることを探し出し、掘り下げる。
- その興味のあることに関連する大学の研究テーマを調べ、理解を深める。